

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。
----------	---

I 自己評価（教務部）

2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業の工夫、人権を尊重した言葉遣い、公平感でありあてはまらないとした生徒 約9% ・学習の評価、個に応じた指導、少人数授業での評価は、いずれも80%強が高評価。反面、あてはまらないとした生徒はいずれも2%～4%いる。 ・保護者、学校評議員等では、個に応じた指導、少人数授業、基礎学力定着への取組での評価について、よくわからないとした割合20%～30%。 ・中高の交流での評価について、よくわからないとした割合20%。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教科指導 (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 基礎・基本内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫ある授業の実践 2 今後も継続発展させる職員の体制 (1) 授業規律確立に十分配慮しかつ家庭学習に支えられた授業展開 (2) 諸活動に対する教職員の協力体制の充実 (3) 学力の向上に向けた教職員の組織的対応の推進 (4) 学習習慣の確立への支援 (5) 「総合的な学習の時間」実施に関する企画・調整 3 コンピュータを活用した校務処理の体系化 (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上 4 情報発信 (1) 電子メディアによる情報発信(HP、携帯連絡メール配信システム) (2) 活字メディアによる情報発信(学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 5 連携型中高一貫教育の充実 (1) 西濃地区連携型中高一貫教育事業の推進 6 魅力ある図書館づくり (1) 豊かな心を育む「読書センター」、主体的に学ぶための「学習情報センター」として、魅力ある図書館づくり	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・図書館運営委員会 ・情報公開検討委員会 ・学習成果発表会実行委員会 ・教科書選定委員会 ・補助教材選定委員会 ・総合的な学習推進委員会 ・リーディングプロジェクト推進委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 年間指導計画の作成依頼、集約。学期末、授業改善への取組の検証及び反省の記録の依頼集約 (2) 連休課題等を早めに配布することで、学習習慣の確立への支援を行うことができた。 (3) 「授業改善研修会」の実施 (4) LP事業「デュアル実習」の実施推進 (5) メール配信システムへの登録状況向上 (6) HP更新(揖斐高Today、各種通信など) (7) 町教委、連携中学校、本校と連携行事(中高一貫教育事業)の調整 (8) 生徒の興味を引きつける図書館広報活動	(1) 年間指導計画の作成に関して各教科への確に依頼できたか (2) 適切な配布時期で実施することができたか (3) 分科会において、活発な意見交換がされたか (4) 計画を持って推進することができたか (5) 登録者が100%となったか (6) 滞りなく随時更新ができていくか (7) 今年度出た課題について、改善しながら進めることができたか (8) 貸出冊数の増加	

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①年間指導計画の作成依頼・集約と学期末授業改善の為の反省記録の依頼集約</p> <p>②学習習慣の支援を行うために連休課題を早めに配布した。</p> <p>③「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流</p> <p>④「デュアル実習」の指導</p> <p>⑤帰宅確認訓練が一度しかできなかった。</p> <p>⑥HPをすみやかに更新することができた。</p> <p>⑦連携行事のスムーズな運営</p> <p>⑧専門科の資料の充実</p>	<p>①各教科に的確に依頼できたか</p> <p>②適切な配布時期に実施できたか</p> <p>③授業改善に活かせることができたか</p> <p>④当初の指導計画通り実践できたか</p> <p>⑤登録者数と回答率の向上</p> <p>⑥更新頻度</p> <p>⑦課題を解決しながら運営できたか</p> <p>⑧学習支援、教科・分掌との連携</p>	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C D</p>
<p>11 成果・課題</p> <p>①② ○連休課題を早めに配布したことで生徒の学習習慣の支援を行うことができた。 ▲年間指導計画の学期末授業改善のための反省記入の依頼が遅れ気味になった。</p> <p>③ ○他教科の授業参観をすることで、見識を広めることができた。 ▲研修会の実施目的等が周知徹底できず、会の運営に支障をきたした分科会があった。</p> <p>④ ○「デュアル実習」の取組は、生徒の力を育てるのに有効な実践だとか感じられた。 ▲今年度4名の実施により運営上の問題なく実施できたが、今後実施人数が増加した場合、現行の分掌分担では、無理が生じる。新たな役割分担を考える必要がある。</p> <p>⑤ ▲多くの先生方に配信システムを利用し、配信の頻度を増やすことで、登録者と帰宅確認訓練の際の回答率を増やす。</p> <p>⑥ ○HPや新聞記事について、更新・掲示をすみやかに行うことができた。 ▲新聞記事の使用目的の確認</p> <p>⑦ ○連携行事は関係方面と相談を重ね、改善しながら良い行事となるようにしていきたい。 ▲連携行事の学習面談指導について、課題が見つかったが、話し合いの成果もあり、理解し合えた。</p> <p>⑧ ○貸出冊数の大幅増加。授業利用が前年度より微増。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>①職員への早期な時期及びわかりやすい見本を添付しての作成依頼</p> <p>②適切な時期の配布</p> <p>③授業改善の啓発と実施目的の周知徹底。授業改善をより良いものとする方法の検討</p> <p>④課題認識の共有と早期対応。報連相の徹底</p> <p>⑤行事などの情報を配信。未登録者の定期的なチェック及び登録への個別対応の実施</p> <p>⑥新聞記事の使用目的の確認（許諾申請時）</p> <p>⑦連携行事は、改善しながら良い行事となるようにしていきたい。</p> <p>⑧生徒の興味を引きつける図書館広報活動の方策の検討</p>		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（生徒指導部）

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けアンケートでは、「マナー」「ルール」「いじめ」「体罰」いずれの質問項目でも[A][B]で90%を超えており、指導の意図が伝わっていると考えられる。 ・今年度ここまで2度実施した「迷惑調査」、3度実施した「教育相談週間」では、いじめの事実は確認されていない。しかし、人間関係のトラブルは散発しており、自己理解他者理解の力を育てる取組は今後も検討していく必要がある。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣確立の徹底（遅刻者数減） 2 交通安全指導の徹底（交通事故件数減） 3 規範意識の醸成（問題行動件数減） 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会 ・いじめ防止対策委員会 ・人権教育委員会 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ol style="list-style-type: none"> (1) 校門あいさつ指導 (2) 通学路立哨指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、全校集会での啓発、養老鉄道乗車指導 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生件数の前年度比 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・学年団依頼の校門あいさつ指導、生徒指導部の昇降口でのあいさつ運動は、学年の協力も得られ指導できている。 ・通学路立哨指導は毎月、鉄道乗車指導は、年度当初と6・9・11・12月に実施。 ・情報モラル教室は、1年生は学年集会、2・3年生はLHRで実施。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 12月までの遅刻者数は減少(999→744) ② 12月までの交通事故は減少(8→3) ③ 12月までの問題行動件数は横ばい。 H26:39(16)→H27:35(17) <p>※ () 内は学校反省該当</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A B <input checked="" type="checkbox"/> D</p>	
11 成果・課題	<p>○遅刻者数が減少していることは成果。反面、不登校傾向の生徒が増え、欠席者数が増加、また、転退学者数も昨年より微増(17→19)しており、自己肯定感達成感を高める学校全体での取組をさらに強化する必要がある。</p> <p>○交通事故の件数は減少しているものの、交通マナー違反(一時停止違反・ながら運転)は依然散見される。</p> <p>▲今年度は、1年生への適応指導が不十分であったのが課題。</p>		<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生に対する適応指導を充実させる。 ○HR活動の時間(LHR)の指導法についての研修の機会を持つ。 ○学習障がい、保護者対応などの今日的な課題に対する研修の機会をより充実させる。 		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（進路指導部）

2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「学校評価アンケート」結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の希望に沿った進路指導をしている」 生徒 72% (H25) 78% (H26) 87% (H27) 保護者 85% (H25) 82% (H26) 84% (H27) 100%目指して、更なる工夫が必要だ。 ・保護者に対して「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」の質問に[わからない]が12%いた。3年生の保護者向けの進路説明会を実施したが、1年生と2年生の保護者向けの情報提供が必要だと感じた。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎学力の定着 2 キャリアアンカーを見つけさせ、進路実現 3 コミュニケーション能力の育成 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年会との連携し、「揖斐Basic」「進路ガイダンス」「3年生保護者対象進路説明会」「学校見学会」等を実施した。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 「揖斐Basic」による学び直し、問題集による基礎学習（作文練習・一般常識ドリル）、外部模試 (2) 進路ガイダンス、面接指導、補習などの実施や地域への体験学習や学校見学など、多くの校外体験学習の実施 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 揖斐テストおよび外部模試の結果で評価（各自の設定した目標が達成できたか） (2) 「進路自分調査」「キャリア教育自己評価」（各自の設定した目標が達成できたか） 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ol style="list-style-type: none"> ①「揖斐Basic」による学び直し、問題集による基礎学習（作文練習・一般常識ドリル）は、年間計画に基づいて実施している。 ②適切な進路情報の提供や進路ガイダンスや面接指導、補習、学校見学、地域への体験学習を計画的に実施している。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 揖斐テストは、学び直しの評価外部模試による各生徒の学力の伸び率 ②多くの進路情報を収集し、自分は「何をしたいか」「何に興味があるか」を「自分調査」でチェックして評価 地域への体験学習・学校見学などの多くの体験や学校行事を通して、コミュニケーションが図れたかを評価(キャリア教育自己評価) 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
11 成果課題	<p>○「揖斐 Basic」による学び直しや問題集学習により、ある程度の基礎学力の定着が図れた。</p> <p>●多くの体験学習等から「何をしたいか」「何に興味があるか」を見つけさせ、「進路自分調査」でチェックをし、自分にあった進路選択をし、進路実現ができたかどうかをどのように検証していくかが課題である。</p> <p>●進路ガイダンスや学校見学は、生徒にとって有意義だが、3年間計画での身につけさせる力が曖昧に見えた。また、保護者説明会の実施等で保護者への情報提供がうまくできたが、更に保護者や生徒への情報提供の精選や進路意識の向上に繋がる説明に心がけたい。</p> <p>○コミュニケーション能力を高めることの必要性が浸透し、多くの進路行事などで、コミュニケーションを意識し活動させることができた。</p>	
<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

12 来年度に向けての改善方法案

(1) 基礎学力の定着

① 「揖斐Basic」

・1学期終了時点で、成績の優れない者を学習室で手厚く指導する。（習熟度の実施）

② 総合的な学習の時間を利用

・2年生の1学期で「揖斐Basic」を実施する。

(2) キャリアアンカーを見つけさせ、進路実現

① 進路ガイダンスのあり方（学校見学を含む）

・生徒の実態にあわせた各学年主導の進路ガイダンスを考える。

② 面接指導の在り方

・夏休みに就職者登校日を実施し、面接指導を実施する。また、生徒を3年の担任副担任以外の先生に割当るなど、方法も改善する。

③ 進路実現のチェック

・各生徒にあった進路先をどのように見つけさせるかを課題とし、いろいろな場面で検証していく。

(3) コミュニケーション能力の育成

・コミュニケーションの向上を図る各学年の行事を実施する。

例：1年→仲間作り（相手の気持ちを考える）、2年→1分間スピーチ、3年→面接指導を通して

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（特別活動部）

2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動が活発である」の問に対する回答は、生徒は大会等の成績以上に日常の活動状況を基準に判断しているものと推測される。 ・「学校行事が充実している」のAの回答が44%（生徒）であるのに対して「生徒会活動が活発である」のAの回答が40%を割っている（38%）のは、生徒自身が生徒会員として活動している実感が少ないためだと思われる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自ら考え行動する力を育てる。 2 委員会活動の充実をはかる。 3 部活動への積極的な参加を促す。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話し合いの場の設定と研修会の実施。 ・各委員会顧問との連携。 ・各部活顧問との連携と生徒へのはたらきかけ。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施。 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取組の検討。 (3) 1年生の部活動全入制の継続。部の活動状況の広報。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 新入生が部活動を継続できているか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回の生徒会執行部会・長期休暇中のリーダー研修会の実施。 ・委員会活動への参加を促し、新しい取り組みを始めた。 ・部登録カードの運用を変更し、HRTに活動状況を把握しやすくした。 	<ol style="list-style-type: none"> ①取組状況などの生徒観察。 ②生徒の委員会活動への参加状況。 ③HRTと部顧問との連携がなされたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○生徒会執行部員は文化祭、体育祭の企画運営や、各委員会活動に能動的に取り組んでいた。</p> <p>○執行部員が取材し作成した「部活動ニュース」は生徒への広報の役割の他、活動している部員の励みにもなった。</p> <p>▲1年生で部活動を前期終了までに退部した生徒を対象とした学習クラブ参加者が50名近くであった。（昨年度よりは若干減）</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生徒会への意識を高めるため委員会活動などの広報も積極的に行っていく。 ・文化祭、体育祭準備時間の効率化を図る（体育祭前日準備時間の短縮、文化祭前日準備時間の増加など）。 ・文化祭のクラス企画の内容がより質的に向上するように働きかける。 		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（保健安全部）

2 評価する領域・分野	◇保健安全部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生配慮や安全指導に関して、概ね満足している。 ・地震・台風などの対策マニュアルに関して、概ね十分満足している。 ・施設・設備に関して少数だが不十分さを感じている。一部の老朽化や清掃の行き届かない点が原因と考えられる。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇健康の意識づけと自己管理能力の向上。 事故の未然防止と災害に備えた訓練の実施。 健康的な環境の保全。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ [保健指導係] 体調管理に関する指導。 ・ [学校安全指導係] 校内の状況チェック。各種訓練の実施。 ・ [環境整備係] 生徒による清掃活動の指導。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 健康診断事後指導。保健室指導。 (2) 安全点検。シェイクアウト・避難訓練。 (3) 美化委員会清掃活動。	(1) 再検査受診率の向上。保健室来室者の変化。 (2) 不具合箇所の減少。訓練の取組状況の向上。 (3) 清掃の取組状況の向上。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・各種健康診断は予定通り実施した。 ・災害対応訓練に取り組んだ。 ・生徒の清掃活動は、場所により差がある。 ・美化委員会の放課後清掃活動を予定通り実施した。 	① 健康診断後の再検査等、事後指導の結果が向上したか。	A (B) C D	
	② 訓練や講習会に取り組み、意識や行動が向上したか。	A (B) C D	
	③ 清掃活動に取り組み、校内美化が向上したか。	A (B) C D	
11 成果課題	○歯科治療済者は昨年よりわずかに増加した。 ○条件を変えてのシェイクアウト・避難訓練や災害図上訓練を行い、防災意識を高めた。 ○美化委員は欠席なくよく活動した。 ▲清掃指導を根気強く継続する。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練を、毎回条件を変えて行い、取組結果を生徒にフィードバックする。 ・2年生対象のDIG（災害図上訓練）を継続実施する。 ・歯科診断後の治療受診率が50%以上になるよう、対象の生徒と保護者への通知を強化する。 ・掃除状況の点検・改善、掃除用具の保守・点検等の委員会活動をよりアピールして清掃活動の関心を高める。 ・美化委員会による学校敷地内清掃活動を継続し、全校生徒の美化意識を育成する。 ・根気強い清掃指導と、美化委員の積極的活動で校内美化をすすめる。 			

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（渉外部）

2 評価する領域・分野	◇渉外																	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携として、 文書わかりやすく伝えている。63% 確実に届けられている。76% ・PTA等の徴収金について詳細に公表している。78%・ ・一斉メールサービスは有効に活用されている。84% 																	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの内容を改善する。 ◇保護者への迅速な情報提供として、ホームページやメール配信システムを有効活用する。 ◇百周年記念行事について、検討をする。 																	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会 ・同窓会理事会、同窓会総会 ・百周年記念行事準備委員会 																	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討した。 (2) メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) PTA活動の協力度、役員会議の意見など各会議への参加協力など (2) 同窓会理事会、百周年準備委員会 																	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討した。 ・メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用できた。 ・同窓会理事会を2回開催し、更に1回開催予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① PTA支援活動等に多くの保護者の協力が得られた。 ② PTA役員各会議や行事の進捗状況 ③ 同窓会関係の会議や行事 ④ 百周年記念事業 	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>A</td> <td>Ⓐ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓐ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>Ⓐ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>Ⓒ</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	Ⓐ	C	D	A	Ⓐ	C	D	A	Ⓐ	C	D	A	B	Ⓒ	D
A	Ⓐ	C	D															
A	Ⓐ	C	D															
A	Ⓐ	C	D															
A	B	Ⓒ	D															
11 成果課題	総合評価																	
<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員の皆様のご協力を頂いて、各会議や行事が円滑に進んでいる。 ○外部の会議等にも大勢の方に参加いただいて、PTA活動に対してご理解を得られている。 ○同窓会関係も継続して行事が引き継がれ、ようやく軌道に乗った。 ▲保護者への連絡やお知らせ等が、十分に届いていない。 ▲メール配信システムの保護者の登録が少ない。 ▲揖斐高フォーラムの参加者が少なく、中止した。 	<table style="width: 100%;"> <tr> <td>A</td> <td>Ⓐ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	Ⓐ	C	D												
A	Ⓐ	C	D															
12 来年度に向けての改善方策案																		
<ul style="list-style-type: none"> ○来年度のPTA役員組織もおおむね良好に決定したので、今後は協力体制の充実を図る。 ○来年度は、百周年記念事業の規約を職員会議、PTAや同窓会の総会で承認を受け、実行委員会を組織して活動を開始する。 ○今後も、一斉メールサービスを活用し、配布物等についても連絡を入れる。 																		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（生活環境科）

2 評価する領域・分野	◇ 専門部（生活環境科）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒から「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」にAB 合わせて93%、「本校の先生は授業等を通して、一人一人の能力に応じた指導を行っている」にAB 合わせて85%の回答があった。保護者からは「専門科設置校として、専門的知識・技術の習得につとめている」にAB 合わせて82%の回答があったことから、専門知識・技術の指導が行き渡っていると考えられる。ただし、CDの評価が少数あったことに対しては、授業内容や教材、指導方法などの工夫をしたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	前期 1 学習指導方法の改善、わかる授業の展開、学ぶ習慣の確立 2 「生きる力」「考える力」の育成 3 地域交流・連携の促進 後期追加 1 「さらに学びたい」と思う授業の展開 2 コンクールや検定への挑戦で技術力向上と自信を持たせる 3 学習成果発表会や飛び専発表会の成功	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・家庭科会議での意思統一と情報交換 ・各分掌・各学年との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) マナー指導と授業規律の徹底 (2) わかる授業の工夫 (3) 進路と連携した指導 (4) 検定・コンクールへの挑戦 (5) 飛び専の円滑な取り組み 後期追加 (1) 授業の目標の明確化とわかる授業の展開 (2) 検定やコンクール入賞 (3) 学習成果発表会・飛び専発表会の成功	(1) 授業開始時に服装が整っているか、挨拶がしっかりできたかを判断。 (2) 授業での質問に対する生徒の回答の様子、授業アンケートの結果、ワークシートによる自己評価の検証。 (3) 志望先への合格率。 (4) 合格率、入選数。 (5) 飛び専の取り組み状況。 後期追加 (1) 「授業内容がよく理解できた」85%以上 「新しく学びたい事柄ができた」50%以上 (2) 被・食2級全員合格 保育3級全員合格 (3) 生徒の成就感 90%以上	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・授業開始時に服装指導と挨拶の徹底を図った。 ・指導と評価、学習指導案の作成をすることにより「わかる授業の工夫」を各自で研修した。 ・生徒の希望ができる限りかなうよう、進路指導部保護者と話し合いながら進めた。 ・検定の指導を放課後や早朝に実施した。山田学園ジョイントファッションショー、岐阜女子大学の各種コンクール、全国高校生HPコンクール、全国きものデザイコンクール等数多く出品した。 ・フューチャーセンターの開催、外部講師による講習会、地域の行事に参加した。	①服装・挨拶 ②指導案の内容 ③進路未定者の数 ④検定の合格率、コンクール入賞者を昨年度と比較 ⑤飛び専の円滑な取り組み	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果 課題	▲服装指導と挨拶の徹底は概ねできたが、普段の生活でもきちんとさせる。 ○予定した科目の「指導と評価の計画」を作成し、授業改善に役立てた。 ▲就職・進学先が学習した内容と異なるものが多く、開拓していく必要がある。 ○全国高校生HPコンクールで特別賞を受賞した。その他にも良い結果を得た。 ○新施設での学習成果発表会や飛び専を無事終えることができ、生徒が生き生きと活躍した。地域からよい評価をいただいた。地域に根ざした揖斐高を更にPRしたい。 ○新聞社・ケーブルテレビに数多く取材してもらえた。ホームページでのPRも充実させた。	
12 来年度に向けての改善方策案	・「指導と評価の計画」を見直し、これをもとに授業改善に努める。 ・教員の技術習得をめざし、年4回程度の科内研修会などを実施し研鑽を積む。 ・学習成果発表会への取組を今年度の反省を生かして円滑なものにする。 ・飛び専を終了したが、このような地域交流の取組を来年度以降も継続実施する。中学生対象の行事内容に組み込む、「生活教養」「生活産業基礎」で「いび祭り」の学習、「課題研究」で「染色」の実習や特産物を利用した料理・お菓子の開発等。ただし、計画的に進める、行事の精選が必要である。 ・コース選択で福祉希望者が30人超え、コースの改変が必要である。介護初任者研修実施へ準備をする。 ・来年度は家庭クラブ副会長校のため、指導者講習会の準備、生徒の育成に努める。	

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（第1学年）

2 評価する領域・分野	◇第1学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校の指導に対する不信感は内在しているため、授業参観など保護者が参加する行事を充実させる必要がある。 SNSのトラブルが多発したが、特別指導に入れるかどうかの線引きが難しく、明確な指導の指標が必要である。 部活動は全員加入が原則であるが、参加率が低いため制度自体の見直し、部活動の選択肢を増やすなど手を打つ必要がある。 生徒指導案件か教育相談案件かの線引きが難しく、普通高校としてどこまでケアするのか、できるのか職員全体での共通理解が必要である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1.基本的生活習慣の定着 2.社会性の育成 3.基礎学力の定着	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 問題が生じた際に迅速に対応を試みた 生徒指導部と連携し、生徒指導対応・教育相談対応を臨機応変に使い分けた。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ベル席の徹底 (チャイムと同時に授業を始める) (2) 遅刻を減らす目的と共に、落ち着いて学校生活を始められるように、朝読書開始時間を5分前倒し、10分間設けた	(1) 概ね達成できた (2) 遅刻は前年と比較して大幅に減らすことができたため、来年度も継続して活用できるシステムだと考えられる	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や時間厳守、言葉遣いなどの社会性の育成と情報モラルに関する指導 行事への活動支援と生活、身だしなみ指導 授業などの学習への取り組みと揖斐Basicによる基礎学力の定着 	①生徒の状況観察と情報収集 ②学校行事などの取り組み状況の検証、生徒の状況観察 ③学習への取り組み状況の検証、定期考査などの成績状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○朝読書を10分設定することで、遅刻指導が行いやすくなった。2年次も継続して朝読書の時間を充実させていきたい。 ○年度当初はSNSによるトラブルなどが多かったが、学年集会やクラス単位の指導を継続的に行うことで、後期はこれらトラブルが減少した。 ▲高校生活に向けていない生徒に関しては、細かく記録するとともに、家庭との連絡を密にする必要がある。大きな問題が起こった時に、小さな問題の積み重ねの上での指導とわかってもらえないことで、保護者とのトラブルに繋がるケースがあった。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の担任に生徒情報を確実に伝達し、1学年の指導の延長として2学年の指導をしていく。 朝読5分前開始の継続。 	
総合評価 A (B) C D		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（第2学年）

2 評価する領域・分野	◇第2学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭との連携が不十分だと感じている保護者が多く、HPが更新されていることを知らせる必要がある。 ・学習指導について学校の指導体制について理解していないが、生徒は概ね授業について満足しているように感じられる。 ・校内の施設や環境整備を充実させる必要がある。 ・生徒指導、進路指導について肯定的な評価をしている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな心の育成（社会適応力を身に付けさせる） 2 学習習慣の確立（授業態度の見直しと家庭学習の充実） 3 キャリア教育の推進（具体的な目標の設定） 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を通じて意思統一する。 ・各分掌と連携して迅速に対応する。 ・正担任・副担任そして教科担任との連携を密にする。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校行事に主体的に取り組み、集団の中での役割を自覚し協調性を身に付けさせる。特に修学旅行を通して、コミュニケーション能力を向上させ、円滑な人間関係を築き方について考えさせる。 (2) LHRや学年集会などを利用して、社会で必要とされるルールやマナーを身に付けさせる。 (3) 授業や家庭学習で学力を定着させるために未提出物調査などを実施する。 (4) 進路研究をすることで自分の進路を具体的に考えさせる。進路ガイダンスを効果的に活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会活動や部活動の参加状況 修学旅行アンケート結果 (2) 出席状況、身だしなみ検査結果、ファイル指導などの状況観察、情報交換 (3) 未提出物調査、生徒の状況観察、情報交換 (4) 進路調査、個別懇談 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の資質に応じた能力の育成。 ②修学旅行へのきめ細やかな事前指導。 ③時間厳守、言葉遣いなどの指導とともに、定期的な服装指導による社会性の育成。 ④課題の提出状況を把握し、教科と連携した指導の実施。 ⑤大学見学会や進路ガイダンスを実施し、進路研究を推進。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校行事などの取り組み状況の検証、生徒観察 ②生徒観察、情報収集 ③身だしなみ検査結果、生徒観察 ④学習への取り組み状況、定期考査などの成績状況把握 ⑤生徒観察、情報収集 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○揖斐川町の行事にも意欲的に参加し、成長がみられた。</p> <p>○部活動では部長などの責任ある仕事を任せられる生徒もみられた。</p> <p>○修学旅行が事故や大きな規律違反なく終えることができた。教員の指導もあるが、生徒の成長もみられた。</p> <p>○揖斐Basicを完成させ、基礎学力が向上する取り組みができた。</p> <p>○朝読書を落ち着いた雰囲気で行うことができた。</p> <p>▲年間を通じて人間関係で問題を抱えた生徒が多く、思いやりの心や協調性を育成したい。</p> <p>▲授業規律や課題の提出期限の守れない生徒への指導を継続したい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策	<p>他分掌との連携を密にしながら生徒の指導にあたる。</p> <p>進路決定に向けて、学力の向上を目指すとともに、社会で必要とされるルールやマナーを身に付けさせる。</p>	

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

I 自己評価（第3学年）

2 評価する領域・分野	◇第3学年																		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と生徒の意識に大きな開きがあるように思われる。 ・特に学校からの文書がきちんと保護者に渡っているか心配である。 ・生徒は学校に対してかなり肯定的な評価をしている。 ・教室を中心とした環境整備をもっと行う必要がある。 ・保護者も教職員の姿勢には肯定的評価をしている。 																		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の推進と進路実現の達成 2 社会で生きる力の育成 3 最高学年としての自覚・態度の育成 4 連携・協力体制に基づく指導 																		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会での意思統一 ・正担任・副担任そして教科担任・部活動顧問との連携 ・校務分掌との連携 																		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																		
<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業を軸にして基礎的な学力をつけ、基本的な生活態度の育成を可能にする指導 (2) 総合学習・LHR・放課後等を活用して進路目標を達成する指導 (3) 学校の核として、部活動や学校行事への主体的な参加を促す指導 	<p style="text-align: center;">*すべての項目において生徒の観察以外に、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 成績概況、課題の提出状況、出欠状況、退学・転学者数、迷惑調査、身だしなみ検査、ファイル指導等の観察 (2) 面接指導報告書、生徒同士の練習状況、正・副担任を中心とした教員との情報交換 (3) 活動日数、戦績、出席率、表彰、学校外の行事への積極的参加など 																		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 教科担任との情報交換と連携 (2) 家庭との連携・学年団での統一指導 (3) 面接・作文の指導、懇談、情報提供 (3) 部活動や学校行事などへ積極的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績概況、教科担任による評価 ・出欠状況、身だしなみ ・進路達成状況 ・学内外からの評価 	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
11 成果・課題	<p>○部活動や学校行事あるいは校外の行事などにも積極的に参加し、最高学年としても役割をある程度果たせたと感じている。退学・転学者を一人も出さず卒業式を迎えられるそうである。また迷惑調査においても、1件盗難があっただけで、生活面で人に迷惑をかけるような訴えは1件もなかった。まだ一部進路未決定者がいるが、全員が卒業後の進路を決定できる方向で動いている。また面接等の指導で、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。</p> <p>▲2学期の成績は成績不振者を多く出し、2学期末の迷惑調査においても、「授業中迷惑になるまで騒ぐ」という項目において、迷惑を感じている生徒が多かった（1組：10名、2組：7名、3組：4名、4組：6名）。一部の生徒の欠席・遅刻が多く、うまく対処できなかった。また、身だしなみの最高学年として模範的な状態を作り出すことができなかった。</p>		<p style="text-align: center;">総合評価</p> <p style="text-align: center;">A B C D</p>																
12 来年度に向けての改善方策案	<p>教科担任との連携を密にして、授業や提出物について改善を図る。また、進路指導において、総合学習とLHRをその時々最も適切な指導を進路指導部と連携を取りながら進める。</p>																		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価（各分掌・学年よりの報告）

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月5日

【意見・要望・評価等】

・揖斐高校の地元での評価は、近年高くなってきている。野球部、フェンシング部の活躍など、卒業生にとっては嬉しい限りだ。登下校の生徒の姿を見ているが、挨拶や制服の着方も以前と比べずっと良くなってきた。教育が行き届いている証拠だと思う。地元に残りたいという生徒が多いということだが、勤めたくても勤める場がないのが現状である。町としても、職場を増やしたい、企業を誘致したいと考えているが、交通量が増えるなどを理由に、なかなか土地を提供してくれる人がいない。今後も企業誘致に努め、有為な人材が地元で働けるような場を提供したい。

・育樹祭に参加できたことを一生の誇りとしてほしい。生徒たち一人一人が、高校で何がやりたいか、何を学びたいかがはっきりしており感心した。周囲への感謝の気持ちを忘れないことも大切だ。「服装の乱れ」の改善は生徒の力でできるようになれば良い。「学習成果発表会」では、生活環境科だけでなく、普通科の発表も増やしてほしい。クラス単位で「学校の誇り」を発表するなど、工夫するとよい。また、学習成果発表会の開始前の諸注意は、生徒に対するものは学校で済ませ、会場では来場者全体に呼びかけるように、雰囲気づくりに努めてほしい。

・「薬物乱用防止講話」は今年ライオンズクラブ主催のものを実施したが、そういう機会を通じて薬物は絶対だめだという意識を高めていってほしい。「デュアル実習」については、以前中学生の体験実習を引き受けたこともあり大変興味を持って聞いた。どういことを学びたいか、どういう体験がしたいかを明らかにし、商工会などに問い合わせるとよい。子供たちの希望を叶えるために、ぜひ協力したいという企業が地元にはあるはずだ。揖斐高ショップは、地域との密接なつながりを大切にしている活動として大変評判も良く、今後も永く続けてほしい。

・「学習成果発表会」は、年々質が高くなってきており、学校の雰囲気の良さも感じる事ができた。今後も揖斐高校の様々なアイデアを発信してほしい。自転車マナーもよくなってきている。また、「生徒との懇談」では、かつての教え子の、心身ともに成長した姿を見ることができ、喜ばしい限りだ。新聞で活躍ぶりを見た時にも感動した。教育とはすぐに成果が出るものではなく、長い目、先を見据える目が必要である。「費用対効果」ではないが、手をかけた分だけの成長が期待できるものであると実感している。今後もさらにその充実に努めてほしい。

・「生徒との懇談」では、普段からよく知っている生徒もおり、一生懸命通学している姿や部活動に取り組んでいる姿を、いつも感心して見ている。地域の人たちは、見ていないようできちんと見ている。私は、揖斐高校の「家政科」（現「生活環境科」）出身だが、今は高校で学んだこととは別の仕事に就いている。高校で学んだことは、もちろん大切だが、他にも道はある、他にもチャンスがあると柔軟に考えることも必要である。選択肢を広げることで、より豊かな未来が広がることもある。中途退学していく生徒も中にはいるが、粘り強く指導してほしい。

